

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	環境施設課長 不破 寛和	
環境-09	廃棄物処理施設のマネジメント事業	☒ 自治事務	主管課	環境施設課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	3-(3) 生活環境	施策の方針	3-(3)-①3Rの推進・ごみの適正処理

1 事業の目的

対象	名越・今泉・深沢クリーンセンター、笛田リサイクルセンター、最終処分場等
意図	処理施設の整備を行うため。
効果	一般廃棄物の適正処理が図られる。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・附属機関である生活環境整備審議会での審議は行わなかったが、第3次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画に基づき、既存廃棄物処理施設等において必要な検討を進めた。
--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	生活環境整備審議会運営事務	生活環境整備審議会委員報酬等	—	— / —	0 / 310	369	—
02				/			
03				/			
04				/			
05				/			
06				/			
07				/			
08				/			
09				/			
10				/			
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	0 / 310	369		
		事業費の合計 (千円)		0 / 310	369		
		人件費 (千円)			951	854	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.6	0.2	0.5	0.5	0.1	0.1
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	生活環境整備審議会運営事務	審議会運営は定型的業務であるため指標設定は行わない。	当審議会における専門的意見の聴取により、適切な廃棄物処理及び、安定的かつ効率的な廃棄物処理体制の構築に寄与する。	—
02				
03				
04				
05				
06				
07				
08				
09				
10				

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		4 市民ニーズを計ることはなじまない
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-3 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施	△-2 市民等と協働して実施する事業はない
			協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 ☐ 拡充 ☐ 改善・変更 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止・廃止

ごみ処理施策の展開に応じて、生活環境整備審議会での調査、審議を行い、一般廃棄物処理施設整備に係る専門的見地からの意見を聴取する。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	
--------------------------	--